

ドイツ連邦食料・農業省 農林漁業最新情報  
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft  
NO 3  
2023・5・8

1 G-7 農業会議 食料システムの持続可能性を強化

一 飢餓、気候危機そして種の絶滅との闘いを共同で解決をー (2023・4・24)

**ウクライナとの連帯を確認**

日本の議長国のもとに連邦食料・農業大臣オズデミールが、4月21日～23日まで宮崎でのG7一農業大臣会議に出席した。



最終声明の中で各農業大臣は、世界的な食料システム、飢餓、気候危機そして種の絶滅との闘い、持続可能な変革のための密接な共同活動<sup>オズデミール食料・農業大臣</sup>を表明した。各農業大臣は、気候を保護し、生物多様性を維持するとき、農業が今日のみならず将来世代にもまた、役立つことに同意した。

連邦食料・農業大臣オズデミール：“持続可能な、回復力のあるそして気候に優しい農業一食料システムは、さらに増大する世界人口を養うための鍵である。収穫物を皿に載せること、そしてその前に腐敗させないこと、または無駄にしないことが重要である。そのため、我々の長期的なアプローチは、穀物袋を配送するのではなく、穀物サイロを建設することである。G7として現地での食料への権利を、実現することに貢献する。そのため、知識の移転と協力を必要とする。最も大きな窮乏軽減のための短期的な政策が重要である。しかし、それが消化器だけでは、根本的な問題解決にならない。”

各国農業大臣は、生産から消費までの実践に即した政策を議論した。最終声明の中で特に気候一生物多様性の保護との調和のとれた農業が、持続可能な農業サプライチェーン並びに持続可能な視点での革新を確認した。その際、G7一農業大臣会議は、全ての利害関係者との共同活動を強調した。

オズデミール大臣：”我々は持続可能な農業—食料システムを、パートナーとの共同活動を促進したい。我々はドイツ議長の際に、国際的にリードする役割を担うことを公表した。昨年シュトゥットガルトでのG7—農業大臣会議での決定を、フォローしてくれたことに私は日本の議長に感謝したい。

我々は宮崎から明確なシグナルを送りたい。我々は複数の危機に直面して、グローバルな共同活動と多国間の行動を表明する。長期的なパートナーシップを提案し関係者の参画を期待する。このことは、特に若い世代に重要である。そして彼らが農業の将来のために決定する。”

## G7はウクライナを支持する

G7—農業大臣会議は、ウクライナに対するロシアの国際法違反の侵略戦争の結果について議論した。この侵略戦争によってグローバルな食料危機が、一層先鋭化している。ウクライナの農業大臣ミコラ ソルスキー農業大臣は、声明に関連してウクライナの穀物の農業分野への影響について報告した。ウクライナの穀物は、必要としているところに行かねばならない。

ウクライナの農業分野の再建と並んで、ウクライナからの穀物輸出ルートが、開かれていなければならない。黒海ルートの代替ルートとして、EU—連帯レーンが有効である。我々は黒海イニシアチブの延長に努力するとき、恐喝の影響は受けない。ウクライナの幸せのためだけでなく、穀物の輸出に依存している世界の南の国々にとっても、G7議論の中心である。我々はプーチンの不安定化の策略を、さらに一層悪化させてはならないと、オズデミールは述べた。

## 背 景：

G7にはドイツ、フランス、イギリス、イタリア、日本、カナダそしてアメリカが属している。そしてEU—代表は全ての会議に出席している。議長は加盟国の間で毎年交代している。ドイツは2023年初めに、日本へ議長職を引き渡した。この会議は、G7—加盟国と、そしてEUと並んで農業食料分野の大きな世界組織である国連のFAO、国際農業開発基金、国連世界食料計画そして経済協力開発機構が招かれた。



G7-農業大臣会議出席者



最終声明の公表

## 2 ニック政務官：前年度の良好な農業経営収入は農業者を安堵させる

ー果実を除く全経営部門が高収益を手にしたー (2023・4・17)

ニック政務官が報告：2021/22 経済年度は、殆どの農業経営形態について、前年度を明らかに上回った。部分的には、大きな収益増が記録された。

連邦食料・農業省の予測によると過去の経済年度との比較において、1労働力当たりの収入が約 43 500€ (約 610 万円・1€=140 円で、約 2% 上昇した。

これは過去 10 年間の経済年度におけ

る平均の結果を、群を抜いて大きく上回っている。この積極的な収入発展の重要な理由は、2021 年第 2 半期以来の多くの農産物の著しい価格上昇であった。

これは明かに高い経営資材価格をも補うものである。



多くの農業経営が高い収益を達成

Dr. オフェリア ニックは述べた：これは大変良いニュースである。多くの農業者が、戦争の時代にも拘わらず良い成果を、成し遂げることができた。連邦と各州の支援プログラムが、コロナパンデミックの悪影響を和らげ、そして多くの農業経営の前向きな決算に貢献できた。この良好な結果は、多くの農業経営者を安堵させた。これは農業者が、経営資金を積立てたこと、又は農村の将来に向けた投資をするための余地をもたらした。

しかし明確なこと。農場の経済状況に関していえば、「燕はまだ夏をもたらしてない」そのために重要なこと。それは農業者が将来的に家畜保護、気候保護において自らの報酬を受取ることである。それでもって、確実な社会的な収入源を開拓できることである。我々は特に、家畜飼育の転換に全力で取り組み、有機農業への参画を強め、そして EU ー農業奨励に際してこの方向に移行すること。そして「公的な貢献で公的な資金」に向かうように尽力する。個々の経営形態別に、そして地域的にも収入の違いが見られる。飼料ー耕作ー複合農業経営は、非常に大きな増加を果たしている。 家畜飼育経営（加工経営も）は、平均して相当に良い収入を手に入れている。

但し、永年作物（果樹）経営においては、良好な収入の進展がみられないが、前年の収入水準は確保している。有機栽培を営んでいる経営は、僅かの収入減少を甘受しなければならなかった。それはつまり、僅かな価格上昇に条件づけられて、僅かながらの収入減退となった。これは既にコロナ パンデミック初めの高い収入水準にあったからである。

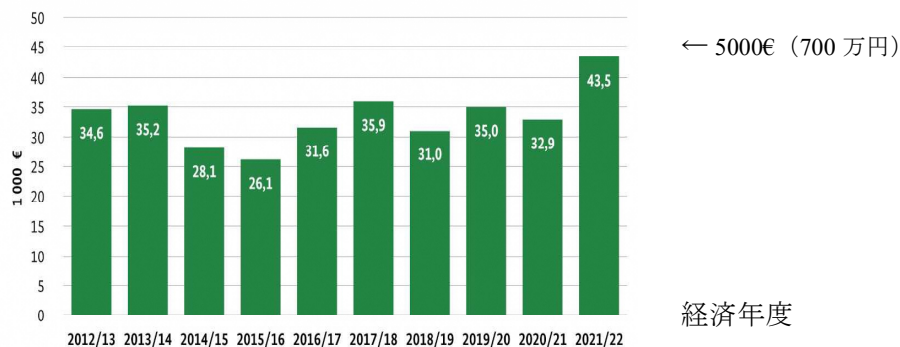
### 経営結果の概要：

#### 1 平均的な収入進展

2021/22 経済年度（WJ）は、ドイツにおける農業経営の収入が、ほぼ全ての法的ー経営形態の全体において、これまでの平均を上回る積極的な進展となった。図の 1 は、過去 10 年間の全経営形態の平均収入の進展を明確に示している。収入の前年対比で 1 労働力当たり（AK）約 32.2%増加し、43 500€（約 610 万円）となった。これでもって収入水準は、2019/2020 経済年度の結果を、明らかに越えて、過去の農業経営の収入進展を大幅に増加した。

#### 農業経営における収入の進展

ドイツにおける全経営形態における 1 労働力（AK）  
当たりの人件費を含めた収益



## 2 経営形態別の収入

主業経営の経営形態の比較において、成果指数の進展と高さで明らかに差を生じている。この原因は価格一量の変動によって、個々の産物に関して販売額ーコストの進展を生じている。ウクライナに対するロシアの侵略戦争は、2021/22 経済年度における通常の変動度合いを、さらに強めた。この結果は様々な経営形態において、かなり異なった収入進展を示している。

### (1) 耕作農業

耕作農業経営（主業経営の 21%を占める）は、2021/22 経済年度において、その前の経済年度の収入と収益の伸びが、明らかに上昇している。前年対比でプラス 39.9%、経営当たり平均して 9 378€（約 131 万円・1€=140 円）の収入を得ている（収入で+ 33.8%の増加）。

### (2) 酪農

酪農経営（主業経営の 34.1%）は、2021/22 経済年度において、収入+ 63.6%、ないし収益が+ 50.5%を示している。これはこれまで最も成果のあがった経済年度の利益を、明らかに上回っている。



耕作農業・ドイツ国民の主食馬鈴薯



最も酪農が盛んなシュレースビック・ホルシュタイン州

### (3) 加工経営（乳製品や精肉等）

加工経営（主業経営の 11.7%）は、同じく増加した売上げから利益を得ている。そして 61.5%の収入増加、平均 59 724€（約 836 万円）の収入、収益は 43.3%で 38 955€（約 545 万円）を記録した。

### (4) その他飼料作経営

飼料作経営（主業経営の 10,9%）は、収入と収益を明らかに改善された。経営当たり+ 60.6%で 49 709€（約 696 万円）、1 労働力当たり+ 48%で収益 35 675€（約 500 万円）、酪農経営とほぼ同じ増加であった。



牛乳をバターに加工し付加価値を高める



飼料作経営は酪農経営と同じ収益を

(5) 混合経営

混合経営（主業経営の 13%）は、評価期間で経営当たり + 56.9% で 72 055€（約 1008 万円）、ないし 1 労働力当たり + 40.8% で、42 087€（589 万円）の収入を得ている。

(6) 園芸経営

園芸経営（主業経営の 3.4% 野菜、花き、鑑賞用植物、苗床）も、2021/22 経済年度における収入状況は良好であった。しかし、他の経営のように強いものでは無かった。この経営グループの 1 労働力当たりの平均収入は、+ 9.7% で 41 409€（約 580 万円）に増加した。



ドイツ国民は大の花好き



ホワイトアスパラの収穫は外国人労働者に依存



アスパラの被覆ビニールの除去に機機を導入



(7) ワイン用ぶどう経営（主業経営の4.3%）

ワイン用ぶどう栽培経営は、前向きな収入ー収益の発展を記録した。収入は10.7%増加し、平均の収入は85 243€（約1 193万円）、そして平均の収益は、1労働力当たり9%増加して39 000€（約546万円）となった。

(8) 果樹経営（主業経営の1.8%）

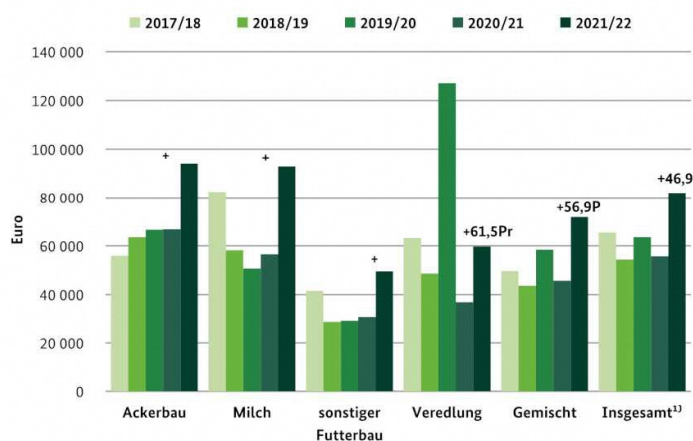
果樹経営は、2021/22 経済年度に幾つかの経営形態の中で、唯一収益損失を記録した。収入は-37.3%、59 000€（約826万円）であった。1労働力当たりの平均収入は、-17.8%で約31 000€（約434万円）となった。経済年度の経過において、1労働力当たりの明確な平均収入は、全経営グループについて最後の位置にある。



ライン川の南面がワイン用ぶどう産地

ボーデン湖畔がドイツ最大のりんご産地

経営形態別の主業経営の収益



1) Alle Betriebsformen, einschl. Garten- und Weinbau.

耕作農業 酪農 飼料 加工 混合 合計

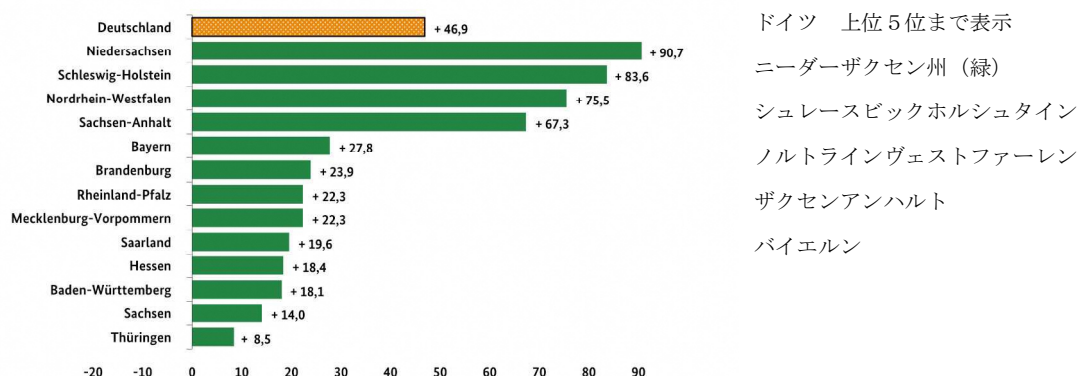
### 3 各州における農業経営収入

農業経営の地域ごとの違いは、経営規模と経営形態に関連しており、収入の進展において明らかに地域的な大きな差となっている。自然的な空間（例えば、土壌の質、標高、気候など）によって、差異はなお一層強くなる。2021/22 経済年度においてニーダーザクセン州とシュレーズヴィックホルシュタイン州の経営が、収入と収益の最も大きな差異を記録している。

ニーダーザクセン州の農業経営は、経営当たりの平均収入は+ 90.7%で、約 104 998€（約 1 470 万円）、そして収益は+ 63.6%で 57 000€ 弱（約 798 万円）となった。似たように高い増加率は、シュレーズヴィックホルシュタイン州が得ている。同州の平均収入は経営当たり+ 83.6%増加して、102 886€（約 1 440 万円）、そして平均収益の増加率は約 60%で、57 000€（約 798 万円）あった。ザクアンハルト州も、+ 67.3% で大幅な増加となった。

飼料作経営の良好な結果を前年に比較すると、約 50.2%増加した。特にニーダーザクセン州とノルトラインヴェストファーレン州が収益を上げたためである。なおこれは今年の経済年度で両州が、加工経営の損失によって明らかに収益減収を記録した。ニーダーザクセン州については、飼料作経営の収入増加が平均して 129%、そしてノルトラインヴェストファーレン州が 130%であった。代表的な経営の大部分を占めるバイエルン州の経営は、平均して 27.8%の収益増加を記録した。

各州の主要経営の収益率の変化 (%)





### 3 オズデミール大臣：若者は持続可能な農業のため重要な鍵である

―農業・食料分野の転換のための持続可能性会議の開催― (2023・5・4)

この会議に際してオズデミール大臣は、若い人々のより多くの参加を強く呼びかけた。”若者たちは農業―食料システムを、危機に強くそして将来を見据えたとき、重要な鍵である”と述べた。これは2023年5月4日、キルヒベルグ/ヤクスト（バーデン・ヴュルテンベルグ州）で開催された、連邦食料・農業省主催の持続可能性会議の挨拶で述べたものである。



若者の持続可能性会議で挨拶する  
オズデミール大臣

”今日または来年農場を引き継ぐ人は、気候危機の結果により強く遭遇するだろう。しかも毎日我々が、怠惰に何もせず過ぎ去るならば。若い世代が中心となって、発言する責任を担い、そして首尾一貫して共に創り出すこと。政治の課題は、今と並んで常に後を継ぐ世代から、目を離さないことである。”

持続可能な会議は、有機―経営のように、農業者が食料業界、科学そして政治、生産基盤を活用し、土壌、水、気候そして生物多様性と調和をもたらすことを話し合う。この会議の焦点は、特に若い世代並びに持続可能な農業と食料の実践のための、若者たちの問題解決とその手がかりの紹介におかれている。

将来委員会の2人の加盟者が、今、持続可能性のタイトルのもとで、若者の期待を提示している。それは連邦ドイツ農村連盟議長のテレザ シュミットと、連邦ドイツ自然保護連盟（BUND）役員モーリッツ タップである。

食料、家畜飼育、有機―農業、気候保護そして農村地域の5つの専門フォーラム並びに議論の場では、参加者が自らの体験と問題解決の手がかりを交流する。オズデミール大臣と並んで、さらにEU―委員会副委員長、フランスのティーマンス、バーデン―ヴュルテンベルグ州首相 ヴィンフリート クレッチマンが挨拶を行った。持続可能性会議は、持続可能な農業―食料システムへの転換報告についての、広範な協議プロセスのための出発点を創り出す。連邦食料・農業省は、連邦環境省（BMUV）とともに、2023年の経過の中でこれを作成する。

オズデミールは、農業―食料業改革のための開会挨拶の中で強調した。” 持続可能性は、現在と将来の間の公正なバランスを、創り出さねばならない。我々は早ければ早いほど、信頼できるほど益々実現出来る。我々は早いほどこの目的を達成する。同時に我々は、危機に強くそしてさらに一層強くする。肥沃な土壌、授粉する昆虫、十分な水、これは我々が満足できる前提条件である。そして我々は土壌、水、種の多様性と気候をより良く守らねば、食料システムを大きな危険に晒すことになる。”

オズデミールは、この危機の道から抜け出す道は、より多くの有機―農業、より多くの家畜の福祉そして良質な食料に見ている。” 我々の目的、それは 2030 年までに有機―農業を 30%を達成することである。これは気候と種の多様性、土壌、水そして空気を、特に高いレベルで守ることになる。その際、有機について全体的なバリューチェーン（価値創造連鎖）、圃場生産、家の内外での食事提供（ケータリング）と勿論スーパーの食品棚でも。正に昨年重要な安定した経済―栄養素の循環がより明確に示した。これを通じて危機に強く、そして自立することができる。

連邦大臣は強調した：” 我々は少ない家畜をより良く飼育したい。人々、自然そして動物がより良く正當に扱われるために。農業者が持続可能な経営をするとき、政治家や「社会のカウンター」にいる我々にとっても、より価値があるはずである。このため、この政府は将来を指向した家畜飼育の転換のために、この立法議会の任期中に、既に以前の政府よりも多くの資金を提供している。その際、特に将来的により強い植物ベースの栄養を摂ることが重要である。「少ない肉は、肉の無いことではない」我々は可能な循環経済のために、家畜を必要とする。野菜も家畜も必要である！



若者たちが持続可能な農業について語る。



農村青年が未来に希望を



テーマ別に意見交流



ドイツ農村青年連盟が参加

#### 4 連邦政府：レストランや学生食堂でより多くの有機一料理提供を

一連邦食料・農業省が家庭外での有機料理の拡大一 (2023・4・19)

ドイツにおいて毎年 400 万人が家庭外で食べる傾向が増加している。家庭外食事の提供は、老いも若きも国民全体が健康で栄養ある、そして持続可能な食事を提供するという家庭外ケータリング (AHV) の大きな可能性をもっている。このことは、有機 (オーガニック) 一食品が重要な貢献を果たす。



レストランでのオーガニック使用の

ラベルを紹介するオズデミール大臣

連邦食料・農業省は、より多くのオーガニック食品をケータリングの中で、支援することを示している。新しいラベルのために法律を改正と新しい規則で、調理スタッフの研修とコンサルティングを奨励する。連邦食料・農業省は、家庭外一食事提供における、様々なオーガニック里程標でもって促進する。

#### オーガニック一割合を一目で識別

レストラン、会社食堂、学生食堂は、オーガニック割合増加の可能性を得ることができる。それは金、銀、銅の新しい表示でもって、オーガニック一料理の割合を説明する。オズデミール大臣は、オーガニック一家庭外料理提供規則を、2023 年 4 月 19 日に内閣に提案した。

## 食堂における新しいオーガニックラベルの提供

具体的には、以下の4つの規定を実施する。

- 一 食堂では調理場において僅かな支出でもってオーガニック食材を使用し、これをお客に情報を提供する。
- 一 オーガニック食材の使用を PR する食堂は、公的な認定及び管理をされているので、お客は安心できる。
- 一 お客はどのようなオーガニック品質の食材が供されているか、一目で認識できる。
- 一 食堂はお客に対して提供する食事は、どのように高い割合のオーガニック料理かを伝えることができる。この目的のために、簡単なロゴマークを、オーガニック割合の高さを、金、銀、銅でもって表示しこれを活用する。

連邦大臣オズデミール大臣が強調した：” 社員食堂、学生食堂などで持続可能な食事提供のためのオーガニックラベルの使用は任意である。このラベルは、簡単にそして検証可能に表示でき、これでもって PR できる。さらに我々は、オーガニック料理の需要を促進する。2030 年までに有機栽培を、ドイツの農地面積の 30%までの拡大実現のために、この需要促進は重要な歩みである。そして我々は最終的に、消費者のためにより多くの透明性を可能にする。

なぜならば、我々は地域での共同ケータリング（家庭外での食事提供）の隙間を、埋める必要が生じている。ケータリング需要の可能性は、現在のところまだ始まったばかりである。そのため、需要と提供の調和を発展させるべきである。”

## 会社にコンサルテーションの奨励

連邦食料・農業省は、会社やレストランにより多くのオーガニック食事の提供のために、資金助成でもって支援する。家庭外一食事を提供する会社は、「オーガニック農産物使用増加のためのケータリング提供会社へのコンサルティング奨励指針（RIBE-AHV）」でもって、従業員の研修とコンサルテーションの財政支援を申請できる。調理場におけるオーガニック産物使用の料理をスタートさせるか、またはオーガニック産物の割合を最低 30%以上に高めたい会社が、この支援対象となる。助成割合は、コンサルテーション経費の最大 80%までである。幼稚園と学校に置いては、自前の調理施設をもっている場合は 90%まで受取れる。最高奨励額は 35 000€（約 490 万円）である。

「オーガニックは誰でも出来る」は、子供と青少年の家庭外一料理の中で、持続可能な栄養、より多くのオーガニック産物に関する、全国的な情報キャンペーンのモットーである。「オーガニックは誰でも出来る」の現地で責任のある各地域パートナーの連邦全域ネットワークは、子供たちと青少年のための持続的な料理提供体制づくりを支援する。その際、オーガニック食品は、地域的そして季節的、家畜に優しく生産された、そして公正に取引された産物に重点がおかれている。自分の施設にオーガニック食品を導入するか、または既にオーガニック食品を取り入れている割合を、さらに高めるような実践的なヒントを参加者は得ることができる。”オーガニックは誰でもできる”は、連邦プログラム（BÖL）の政策である。

### **イニシアチブ「オーガニックをどうぞ—公共の食堂でより多くのオーガニックを」**

この政策はケータリングにおけるオーガニック—食品の割合を高めるために、現地での関係者を支援する。このため、映画、優れた実践事例、情報パンフなど、広範な情報提供を行う。これらは全て無料で利用できる。”オーガニックをどうぞ”の領域において、連邦全域で連邦と州そして地方自治体レベルでのイベントもまた提供される。

### **連邦省食堂におけるオーガニック—割合向上のための政策**

持続可能性の政策プログラムの20%—目標実践のために、ベルリン市上院「食堂の将来」プロジェクトのように、連邦食堂をどのように活用できるかを検討している。ベルリンの連邦食堂における可能性を探るために、コンサルテーションサービスを実施し、最初の検討案を現在作成中である。

さらにパイロットプロジェクトが実施される。関心のある役所/食堂において、オーガニック割合を50%にするためのパイロットプロジェクトを、導入できる。この公示によっては連邦管理の領域において、10の食事提供施設が、熟慮の後に入札を実施する。目的はこの施設において、常にオーガニック—割合を達成できるためのコンサルテーションの実施である。更なる方法と入札の内容を検討し、連邦環境・自然保護・原子力安全・消費者保護省（BMUV）と連邦厚生省（BMI）との合意が必要である。

## 地域におけるオーガニックケータリングの対象



幼稚園

小学校

高齢者

## 企業や公的食堂がオーガニックの料理の普及拠点に



地域企業の社員食堂



連邦食料・農業省の食堂

### 5 ミュラー政務官がデジタル実験圃場会議を開催

—農業の持続可能なデジタル化促進への刺激— (2023・4・27)

デジタル化は、農業が時代に即してさらに発展させることに貢献する。連邦食料・農業省は、農業分野におけるデジタル転換のための実験圃場を奨励している。4月28日までベルリンで開催されるこの実験圃場会議で、デジタル実験圃場の成果を紹介する。クラウドディア ミュラー政務官は、この会議を開催しそして述べた。”農業経営は、しばしばデジタル化のパイオニアである。なぜならば、デジタル化は農業においても、労働力を軽減するからである。同時にこの職業でまさに若い人々にとっても、魅力的でそしてより多くの持続可能性のために貢献する。

この分野の成果多いデジタル化のために、何を必要とするかを探る。そして実践に近い研究で持続性に富んだ知識伝達と、ネットワーク化を図る。そこで我々は、14カ所の実験圃場を全て奨励している。デジタルの日常的な利用での問題解決を試験する。つまり、ぶどう園におけるドローンからアシスタントシステムを通じた牛の飼育そしてデジタルのバリューチェーン（価値連鎖）まで、幅広い取り組みである。

前向きな中間成果は、実験圃場での成果ある着想を示している。この会議は、科学、経済、政治そして一般市民の代表者に対して、実験成果を提供し、かつ交流する討論の場を提供している。そして個々の実験圃場の相乗効果を高める。我々は農業の持続可能なデジタル化のために、大枠条件の枠組みを形成する上で、皆さんの協力を期待している。”



14カ所のデジタル実験圃場

緑色：作物生産

黄色：家畜生産

黄・緑：分野を越えたテーマ

## 背景：

連邦食料・農業省は、農業分野における 14 の実験圃場を奨励している。この会議は、科学者が実験圃場で得られた成果を紹介し、そこから生ずる行動の必要性を引き出す。政治、研究そして実践者の中で引き続き、交流の中で知識移転に役立つ。実験圃場は、農業におけるデジタルテクノロジーの使用目的、持続可能性、そして効率性を向上させるために試験を行う。テクノロジーの知識移転は、上一下流の分野も含まれる。これは関心をもつ市民のような、プロの聴衆のために相談ポイントを提供する。デジタル化は、農業を現代的にさらなる発展と多くの可能性を事例的に切り開く。

- 持続可能なそして透明な食料生産
- 労働力使用の削減と身体的に負担のある作業の軽減
- 家畜の福祉向上
- 慎重なそして効率的な資源利用
- より多くの環境—気候保護のための肥料—農薬の削減

## デジタル農業実験圃場の概要（14カ所）

- ① 土地利用：ドレスデン工科大学（コーディネーター）

テーマ：農業 4.0(デジタル農業)における農村地域の包括的コミュニケーションクラウドネットワーク



- ② EXPRESS：ライプツヒ大学（コーディネーター）

テーマ：農業におけるデジタル化とデータ処理ネットワーク化

- ③ Agro-Nordwest：アグロテック バレーフォーラム（コーディネーター）

テーマ：作物栽培におけるデジタル農業—問題解決の実践指向の包括的な更なる発展のためのプロジェクト

- ④ BeSt-H：キール応用科学大学（コーディネーター）

テーマ：マテリアルフロー（物質の採取から廃棄までの流れ）と運用  
シュレースビック・ホルシュタイン州におけるネットワーク化された農業

- ⑤ Diabek：ヴァイヘン シュテファン・トリーズドルフ 応用科学大学

テーマ：デジタルの使用、評価、コミュニケーション、家族的色彩の濃い畑作経営を、より実践指向の強い教育施設との協力

- ⑥ Digimilch：バイエルン州立農業研究センター（コーディネーター）

テーマ：乳牛飼育におけるデジタル化—農業生産チェーン牛乳に沿ったサービスと新しいデジタル産物のデモンストレーション、試験そして評価





- ⑦ DigiVine : ユリウス キューン研究所 (コーディネーター)  
テーマ : ワイン用ぶどう栽培における価値創造ネットワークにおける  
デジタル化 植え付けからぶどうの収穫まで。



- ⑧ CattleHub : ボン大学 (コーディネーター)  
テーマ : 聡明な乳牛飼育のためのアシスタントシステム
- ⑨ Farmer Space : ゲッチングビート研究所 (コーディネーター)  
テーマ : 作物保護のためのデジタルテクノロジー実装のための実験圃場
- ⑩ DIWAKKOPTER : ガイゼンハイム大学 (コーディネーター)  
テーマ : マルチコプターでのワイン畑におけるデジタル化 ネットワー  
クセンサーと人工衛星支援の通信チャンスルートによるぶどう  
畑作物のデジタル化



- ⑪ EF-Suedwest : ラインヘッセン農村地域サービスセンター  
ナーヘフンスリュック (コーディネーター)  
テ ー マ : 専門分野及び経営を越えたデータマネジメントの奨励

- ⑫ Agrisens-DEMMIN4.0 : ドイツ地球科学研究所 ヘルムホルツセンター  
(コーディネーター)

テ ー マ : 作物栽培におけるデジタル化のためのリモートセンシング  
技術の使用

- ⑬ DigiSchwein : ニーダーザクセン州農業会議所 (コーディネーター)

テ ー マ : 資源保護配慮のもとでの家畜に適した豚飼育におけるデジタル  
化とクロスイノベーション  
(異なる分野と組合わせた革新) ーアドバイス、資格認定、普及



- ⑭ DiWenKLa : ホーエンハイム大学 (コーディネーター)

テ ー マ : 持続可能な小規模構造の農業のためのデジタル価値創造  
チェーン

2023・5・5 訳  
青森中央学院大学  
地域マネジメント研究所  
中川 一徹